（品目別需給編）

1　小麦

(1)国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

＜米国農務省（USDA）の見通し＞

2018/19 年度

生産量　　前年度比　↓　前月比　－

・過去最高を記録した前年度より減産の見込み。

・米国等で増産も過去最高の生産量となったロシアで減産見込み。

消費量　　前年度比　↑　前月比　－

・食用需要で増加し、史上最高となる見込み。

輸出量　　前年度比　↑　前月比　－

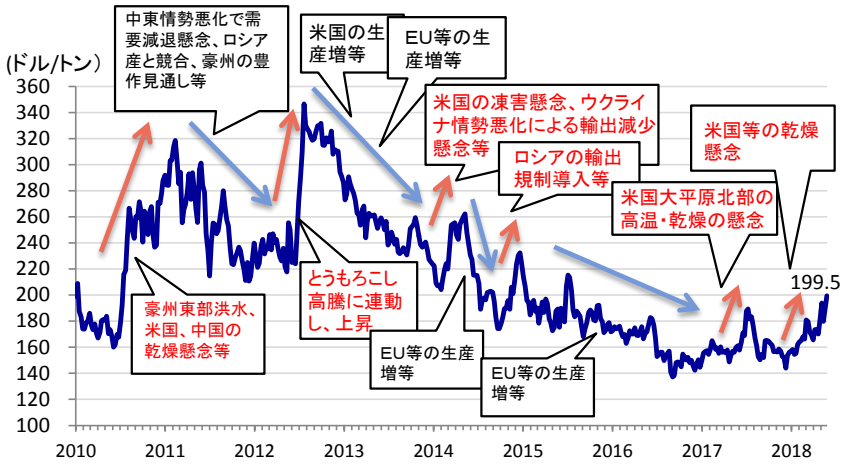
・ロシア等で減少も EU 等で増加し、前年度を上回る見込み。

期末在庫量　　前年度比　↓　前月比　－

（単位：百万トン）

年　度	2016/17	2017/18（見込み）	2018/19		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生　産　量	750.5	758.4	747.8	－	▲ 1.4
消　費　量	738.8	743.8	753.9	－	1.4
うち飼料用	146.8	145.4	145.6	－	0.2
輸　出　量	183.3	182.1	188.4	－	3.5
輸　入　量	179.1	181.4	184.9	－	1.9
期末在庫量	255.9	270.5	264.3	－	▲ 2.3
期末在庫率	34.6%	36.4%	35.1%	－	▲ 1.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、「Grain：World Markets and Trade」、「PS&D」(10 May 2018)



(3) 国別の小麦の需給動向

＜　米国　＞

【生育・生産状況】春小麦の作付けは前年度より遅れたものの、５月末時点で概ね終了。冬小麦は５月末の出穂段階で作柄は前年度より劣っていたが、５月に入りわずかに改善された。６月以降、冬小麦の収穫が開始される見込み。

生産量は、収穫面積の増加と単収の上昇により前年度より約５％増加する見込み。冬小麦は、主要生産州のカンザス州等の干ばつ等で生産量は前年度より約６％減少するものの、春小麦は収穫面積の増加と単収の上昇により、低水準であった前年度より約 34％増加する見込み。

【需要状況】国内需要は、31.2 百万トンと前年度より増加。その内訳は、食用需要が 26.3 百万トン（前年度比 0.2％増）、飼料用はとうもろこしの減産により 3.3 百万トン（前年度比 71.2％増）、種子用が 1.7 百万トン（前年度比 1.7％減）となる見込み。

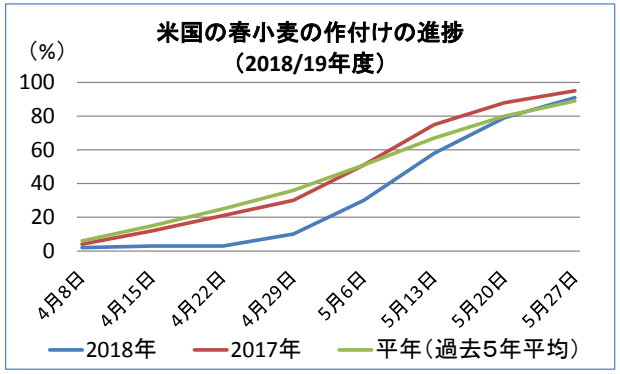
【貿易情報・その他】輸出量は、期首在庫が前年度よりわずかに減少するものの、生産量が増加するため、前年度より増加し 25.2 百万トンとなる見込み。一方、輸入量は春小麦の増産によりカナダからの輸入量の減少が見込まれるため、前年度より減少し 3.7 百万トン（13.0％減）となる見込み。

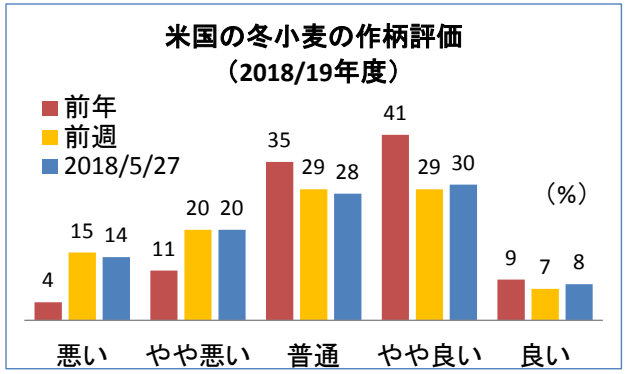
小麦－米国　（冬小麦が全体の７割、春小麦は３割）

（単位：百万トン）

年　度	2016/17	2017/18（見込み）	2018/19 予測値	2018/19 前月予測からの変更	2018/19 対前年度増減率(%)
生　産　量	62.8	47.4	49.6	－	4.6
消　費　量	31.8	29.8	31.2	－	4.7
うち飼料用	4.3	1.9	3.3	－	71.2
輸　出　量	28.7	24.8	25.2	－	1.6
輸　入　量	3.2	4.2	3.7	－	▲ 13.0
期末在庫量	32.1	29.1	26.0	－	▲ 10.8
期末在庫率	53.1%	53.4%	46.1%	－	▲ 7.3
（参考）					
収穫面積(百万ha)	17.75	15.21	15.76	－	3.6
単収(t/ha)	3.54	3.11	3.15	－	1.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、「Grain: World Markets and Trade」、「World Agricultural Production」(10 May 2018)





資料：USDA「Crop Progress」(2018.5.28)をもとに農林水産省で作成。

＜　カナダ　＞

【生育・生産状況】作付けが開始されているが、カナダ各州政府によると乾燥天候傾向のため、5月半ば時点で作付け進捗率はサスカチュワン州では春小麦が33%、デュラム小麦が39%、アルバータ州では前年度同時期の29%より大幅に低下し、９%となっている。

カナダ農務農産食品省(AAFC)によると、作付面積は、期首在庫が少ないこと、価格水準が比較的高いことから、デュラム小麦が4.9%増加して2.2百万ヘクタール、デュラムを除くその他の小麦は前年度と比較して3.6%増加し、7.3百万ヘクタールとなる見込みである。デュラムを除く小麦のうち、冬小麦は前年度より11%減少するものの、春小麦は５%増加する見込みである。

生産量は、デュラム小麦が作付面積の増加により前年度より14.9%増加し5.7百万トン、デュラムを除く小麦が単収の低下で前年度より2.9%減少し24.3百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】米国農務省(USDA)によれば、輸出量は主に北アフリカのデュラム小麦需要の増加により、前年度より0.5百万トン上昇する見込み。

＜　豪州　＞

【生育・生産状況】例年通り、４月に入り播種が開始された。世界的に小麦価格が低迷し収穫面積が減少するものの、干ばつの影響を受けた前年度に比べ天候が回復する予測から、単収が上昇し、生産量が増加する見込み。

【貿易情報・その他】輸出量は、2017/18年度については黒海地域産との競合により前年度より33.7%減少する見込み。一方、2018/19年度については品質の高い豪州産小麦に需要が高まると見られていることや、2018/19年度の生産量が増加すると見込まれていることから、輸出量は前年度より13.3%増加する見込み。2017/18年度豪州産の小麦の輸出価格は、乾燥天候が長引いた米国の冬小麦の作柄悪化懸念につれて上昇した。

小麦ーカナダ　（春小麦を主に栽培）

（単位:百万トン）

年　度	2016/17	2017/18（見込み）	2018/19 予測値、（　）はAAFC		2018/19 前月予測からの変更	2018/19 対前年度増減率(%)
生　産　量	32.1	30.0	32.5	(30.0)	－	8.3
消　費　量	10.8	9.0	9.6	(8.5)	－	6.7
うち飼料用	5.9	3.8	4.5	(4.1)	－	18.4
輸　出　量	20.2	23.0	23.5	(21.9)	－	2.2
輸　入　量	0.5	0.5	0.5	(0.1)	－	－
期末在庫量	6.8	5.3	5.2	(6.0)	－	▲ 1.9
期末在庫率	22.1%	16.7%	15.8%	(19.7%)	－	▲ 0.9
（参考）						
収穫面積(百万ha)	8.98	9.00	9.77	(9.31)	－	8.6
単収(t/ha)	3.58	3.33	3.33	(3.22)	－	－

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、「World Agricultural Production」(10 May 2018)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(23 April 2018)

小麦ー豪州　（冬小麦を主に栽培）

（単位:百万トン）

年　度	2016/17	2017/18（見込み）	2018/19 予測値、（　）はIGC		2018/19 前月予測からの変更	2018/19 対前年度増減率(%)
生　産　量	30.4	21.5	24.0	(24.3)	_	11.6
消　費　量	7.4	6.8	7.2	(7.1)	_	5.9
うち飼料用	3.9	3.4	3.8	(3.7)	_	11.8
輸　出　量	22.6	15.0	17.0	(17.5)	_	13.3
輸　入　量	0.1	0.2	0.2	(0.2)	_	－
期末在庫量	4.4	4.2	4.2	(5.9)	_	▲ 1.2
期末在庫率	14.6%	19.4%	17.2%	(24.0%)	_	▲ 2.1
（参考）						
収穫面積(百万ha)※	11.72	12.25	12.20	(12.20)	－	▲ 0.4
単収(t/ha)	2.59	1.76	1.97	(1.99)	－	11.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、「World Agricultural Production」(10 May 2018)
IGC 「Grain Market Report」(24 May 2018)

＜　EU　＞

【生育・生産状況】４月初旬、フランス、ドイツ南部ではほぼ例年並みに出穂期を迎え、ドイツ北部では若干遅れ気味で分げつ期を迎えている。

欧州委員会によれば、作付面積が減少するものの、乾燥懸念が降雨でほぼ解消され生産量は 149.1 百万トンとほぼ前年度並みとなる見込み。

【貿易情報・その他】米国農務省(USDA)によれば、2018/19 年度の輸出量は豊作であったロシアとの競合により 24.0 百万トンと減少した前年度から回復し 29.0 百万トンとなる見込み。また、2018/19 年度の輸入量は製粉小麦、飼料用小麦需要の変動が小さいとの見込みから前年度と同じ 5.5 百万トンの見込み。

＜　中国　＞

【生育・生産状況】生育はほぼ前年並であり、冬小麦は、西南地区の一部では成熟期を迎えている。作柄は例年に比べ良い。６月以降、河南省等主産地で収穫が開始される見通し。また、春小麦は播種期から分げつ期を迎えている。

【需要状況】消費量は、飼料用需要増から増加が見込まれている。

中国政府によると、2018 年 4 月 18 日から、2014～2016 年産最低価格買付小麦（３等小麦）の競売最低価格が 2,350 元/トンに引き下げられた。

【貿易情報・その他】

＜国家糧食及び物資備蓄局が正式に発足＞

「党と国家機構の改革を深化させる方案」により、本年４月に「国家糧食及び物資備蓄局」が設立された。その目的は、国家備蓄の全般計画の強化、統一された国家物資備蓄体系の構築、中央備蓄穀物と綿の監督と管理の強化により、緊急事態に対応する国家備蓄の能力を強化することである。同局は国家発展改革委員会によって管理される。

小麦ーEU　（冬小麦を主に栽培）

（単位：百万トン）

年　度	2016/17	2017/18（見込み）	2018/19 予測値、（　）はEU		2018/19 前月予測からの変更	2018/19 対前年度増減率(%)
生　産　量	145.4	151.6	150.4	(149.1)	－	▲ 0.8
消　費　量	128.0	130.9	129.5	(128.1)	－	▲ 1.1
うち飼料用	56.0	58.5	57.0	(54.8)	－	▲ 2.6
輸　出　量	27.3	24.0	29.0	(28.2)	－	20.8
輸　入　量	5.3	5.5	5.5	(5.4)	－	－
期末在庫量	10.9	13.1	10.5	(19.1)	_	▲ 19.9
期末在庫率	7.0%	8.4%	6.6%	(12.2%)	_	▲ 1.8
（参考）						
収穫面積(百万ha)	27.23	26.29	25.80	(25.48)	－	▲ 1.9
単収(t/ha)	5.34	5.77	5.83	(5.9)	－	1.0

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 May 2018)
EU「Balance Sheets For Cereals and Oilseeds and Rice」(31 May 2018)

小麦ー中国　（冬小麦を主に栽培）

（単位：百万トン）

年　度	2016/17	2017/18（見込み）	2018/19 予測値、（　）はIGC		2018/19 前月予測からの変更	2018/19 対前年度増減率(%)
生　産　量	128.9	129.8	129.0	(128.7)	_	▲ 0.6
消　費　量	118.5	117.0	120.0	(120.1)	_	2.6
うち飼料用	16.5	13.5	15.0	(14.7)	_	11.1
輸　出　量	0.8	1.0	1.2	(1.1)	_	20.0
輸　入　量	4.4	4.0	4.0	(3.3)	_	－
期末在庫量	111.1	126.8	138.6	(120.4)	_	9.3
期末在庫率	93.1%	107.5%	114.4%	(99.3%)	_	6.9
（参考）						
収穫面積(百万ha)	24.19	23.99	23.90	(23.80)	_	▲ 0.4
単収(t/ha)	5.33	5.41	5.40	(5.41)	_	▲ 0.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 May 2018)
IGC 「Grain Market Report」(24 May 2018)

＜　ロシア　＞

【生育・生産状況】冬小麦は、4 月中旬から下旬の欧州地域の気温低下により、休眠期からの生長再開の遅延が懸念されたが、その後、気温は平年を上回って推移し、急速に生長が進展。

一方、春小麦の播種作業は、前年度に比べて遅れ気味で 5 月末時点で播種完了面積は 9.4 百万ヘクタールと 4 割程度の進捗率である。

生産量は、米国農務省(USDA)によれば、史上最高の昨年度よりは減少するものの、史上第 2 位の 2016/17 年度の生産量に近い水準は確保する見通し。

【貿易情報・その他】2017/18 年度はロシアでの増産と米国等に比べ高い輸出競争力から世界第 1 位の小麦輸出国となる見込み。ロシア税関によれば、同年度の小麦輸出量は 5 月 16 日時点で前年度比 46%増の 36.2 百万トン。2014 年に輸出解禁となった中国にも 4.13 万トン輸出された。

＜　ウクライナ　＞

【生育・生産状況】生産の多くを占める冬小麦の生育状況は概ね良好で、米国農務省によれば小麦全体の生産量は前年度と同水準の 26.0 百万トン程度の見通し。なお、そのうち 17.0 百万トン(前年度対比 1.2 %減)の輸出が見込まれている。

＜　カザフスタン　＞

【生育・生産状況】春小麦の作付けが 5 月下旬から開始された。米国農務省によれば、生産量は前年度より 5 %減の 14.0 百万トン、そのうち 8.0 百万トン程度(前年度対比 5.9%減)の輸出が見込まれる。

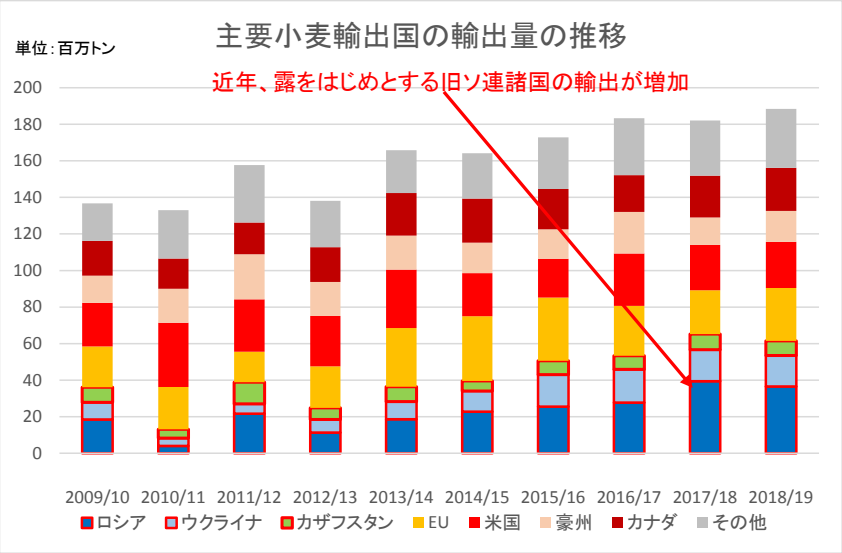
【貿易情報・その他】中国向け鉄道輸送に力を入れている同国では、カザフスタン鉄道アルプィスバエフ社長が 2017 年に中国糧油集団(COFCO)向けに 6 万 8000 トン穀物を運んだ旨発言。2018 年の数量は既に 4 万 8000 トンに上っている。

小麦－ロシア　（主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培）

（単位：百万トン）

年　度	2016/17	2017/18（見込み）	2018/19 予測値、（　）はIGC		2018/19 前月予測からの変更	2018/19 対前年度増減率(%)
生　産　量	72.5	85.0	72.0	(74.5)	-	▲ 15.3
消　費　量	40.0	45.0	42.0	(41.8)	-	▲ 6.7
うち飼料用	17.0	21.5	19.0	(18.0)	-	▲ 11.6
輸　出　量	27.8	39.5	36.5	(37.0)	-	▲ 7.6
輸　入　量	0.5	0.4	0.5	(0.3)	-	25.0
期末在庫量	10.8	11.7	5.7	(14.0)	-	▲ 51.2
期末在庫率	16.0%	13.9%	7.3%	(17.7%)	-	▲ 6.6
（参考）						
収穫面積(百万ha)	27.00	27.34	26.00	(26.50)	-	▲ 4.9
単収(t/ha)	2.69	3.11	2.77	(2.81)	-	▲ 10.9

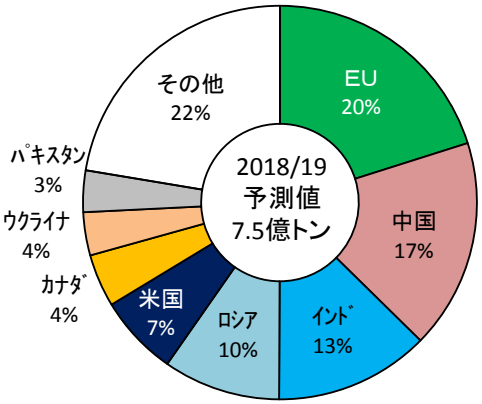
資料：USDA　「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、「World Agricultural Production」(10 May 2018)
IGC　「Grain Market Report」(24 May 2018)



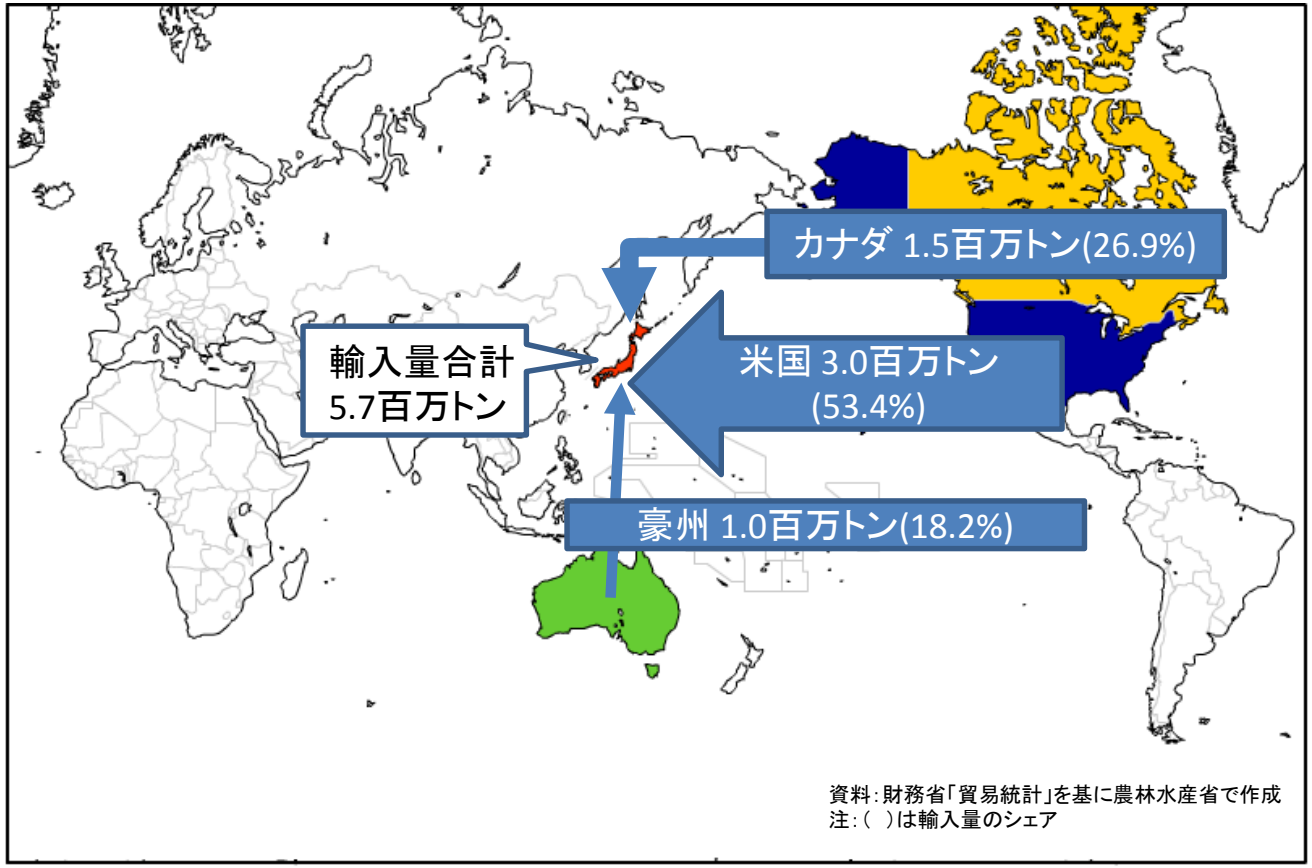
資料：USDA「PS&D」(2018.5.10)をもとに農林水産省で作成。

資料　世界の小麦生産量と輸出量/日本の輸入量（2018年５月現在）

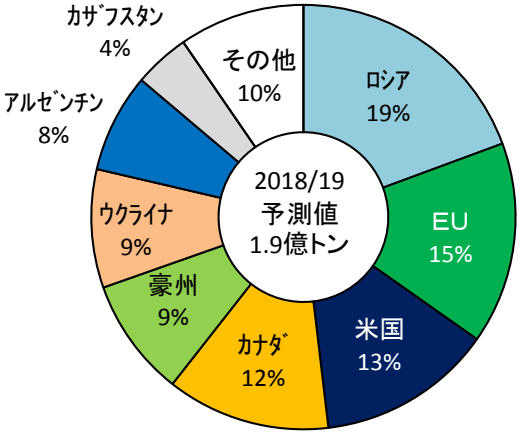
世界の小麦生産量



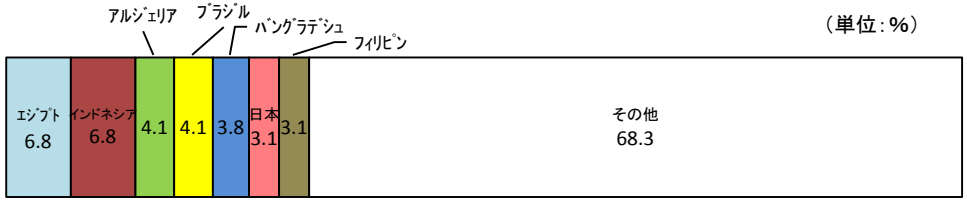
日本の国別小麦輸入量（2017年）



世界の小麦輸出量



＜参考＞世界の小麦輸入国（2018/19）
－世界の輸入量の3割を上位7カ国が占める－



日本の小麦生産量
2015年：1.00百万トン
2016年：0.79百万トン
2017年：0.91百万トン
（資料：農林水産統計）

資料：USDA「PS&D」(2018年5月10日)を基に農林水産省にて作成。

2　とうもろこし

（１）国際的な需給の概要（詳細は右表を参照）

＜米国農務省（USDA）の見通し＞

2018/19 年度

生産量　　前年度比　↑　前月比　－

・米国等で減少するものの、中国等で増加し、前年度を上回る見込み。

消費量　　前年度比　↑　前月比　－

・中国等で増加する見込み。

輸出量　　前年度比　↑　前月比　－

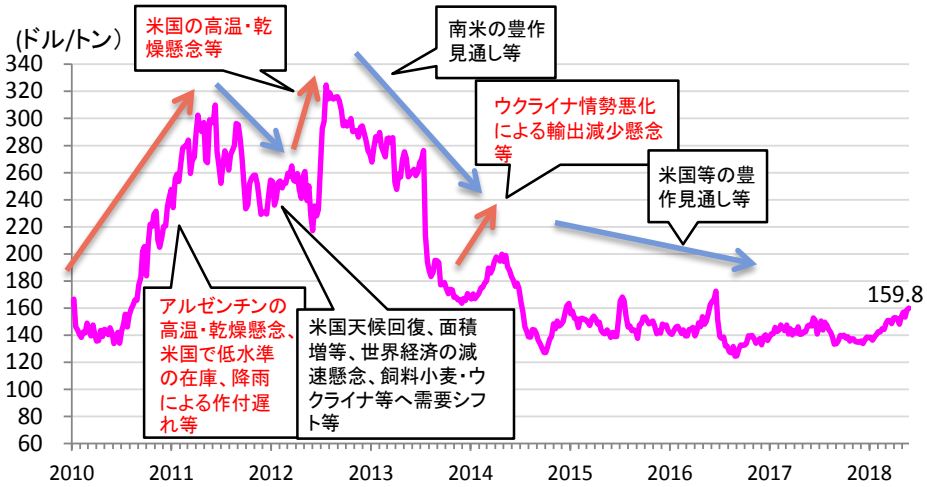
・米国等で減少するものの、ウクライナ等で増加し、前年度を上回る見込み。

期末在庫量　　前年度比　↓　前月比　－

（単位：百万トン）

年　度	2016/17	2017/18（見込み）	2018/19		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生　産　量	1078.31	1036.66	1056.07	-	1.9
消　費　量	1060.76	1069.34	1091.77	-	2.1
うち飼料用	632.91	648.66	665.56	-	2.6
輸　出　量	159.68	151.10	158.02	-	4.6
期末在庫量	227.53	194.85	159.15	-	▲ 18.3
期末在庫率	21.4%	18.2%	14.6%	-	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(May 2018)



注：シカゴ商品取引所による 2018 年 5 月 25 日までの毎週金曜日の期近価格である。

（2）国別のとうもろこしの需給動向

＜　米国　＞

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)によると、5 月末時点で生育状況は、良好である。生産量は、昨年度と比較して、収穫面積が減少したため、3.9%減少する見通し。

【需要状況】飼料需要は、前年度比で低下する見通し。一方、バイオエタノール向け需要は、ガソリン消費の増加にともない、わずかに増加。原油価格上昇により、バイオエタノールを配合することが、事業者の利益につながるためである。

なお、2018/19 年度バイオエタノール向け需要の国内消費量に占める割合は、45%であり飼料向けを上回っている。飼料向け DDGS（distiller's dried grains with solubles：バイオエタノール副産物）は、バイオエタノール向け需要とともに、増加の見込み。

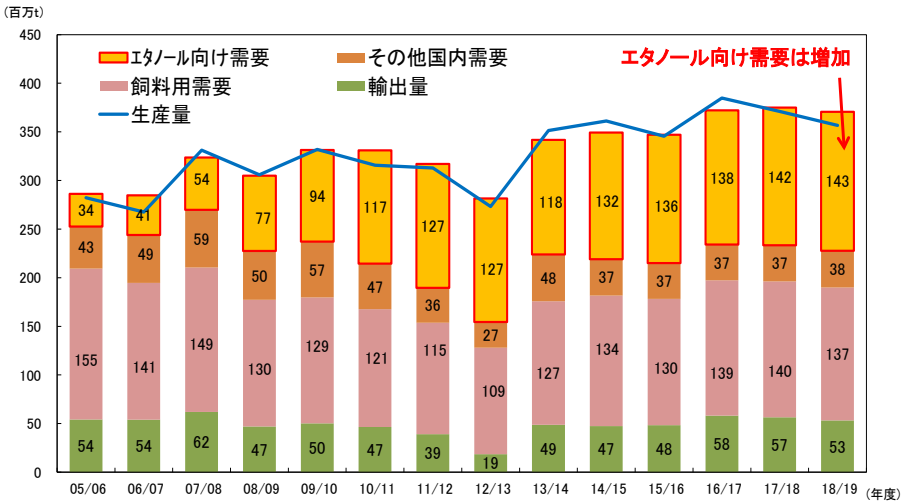
とうもろこしー米国

（単位：百万トン）

年　度	2016/17	2017/18（見込み）	2018/19 予測値	2018/19 前月予測からの変更	2018/19 対前年度増減率(%)
生　産　量	384.8	371.0	356.6	－	▲ 3.9
消　費　量	313.9	318.5	317.3	－	▲ 0.4
うち飼料用	139.0	139.7	136.5	－	▲ 2.3
エタノール用等	138.0	141.6	142.9	－	0.9
輸　出　量	58.2	56.5	53.3	－	▲ 5.6
輸　入　量	1.5	1.3	1.3	－	－
期末在庫量	58.3	55.4	42.7	－	▲ 22.9
期末在庫率	15.7%	14.8%	11.5%	－	▲ 3.3
（参考）					
収穫面積(百万ha)	35.11	33.47	32.66	－	▲ 2.4
単収(t/ha)	10.96	11.08	10.92	－	▲ 1.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、「World Agricultural Production」（May　2018）

米国とうもろこし需給の推移



とうもろこしーアルゼンチン

（単位：百万トン）

年　度	2016/17	2017/18（見込み）	2018/19 予測値、( ) はIGC	2018/19 前月予測からの変更	2018/19 対前年度増減率(%)
生　産　量	41.0	33.0	41.0　(48.3)	－	24.2
消　費　量	11.2	9.8	12.0　(20.1)	－	22.4
うち飼料用	7.5	6.0	8.0　(15.5)	－	33.3
輸　出　量	26.0	25.0	27.0　(29.0)	－	8.0
輸　入　量	0.0	0.0	0.0　－	－	－
期末在庫量	5.3	3.5	5.5　(5.8)	－	57.8
期末在庫率	14.2%	10.0%	14.1%　(22.5%)	－	4.1
（参考）					
収穫面積(百万ha)	4.90	5.10	5.00　(6.45)	－	▲ 2.0
単収(t/ha)	8.37	6.47	8.20　(7.49)	－	26.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、「World Agricultural Production」（May 2018）
IGC 「Grain Market Report」（May 2018）

＜　ブラジル　＞

【生育・生産状況】ブラジル国家食料供給公社（CONAB）によると、2017/18 年度夏とうもろこしは、収穫を終了。生育期である冬とうもろこしは、ブラジル南部で 4 月以降、干ばつが発生していることから、2016/17 年度と比較して、南部（パラナ州、サンタカタリナ州、南リオグランデ州）における生産量は、減少する見通し。

【需要状況】CONAB によると、主に鶏・豚用向け飼料が中心に伸びている。ブラジルとうもろこし産業協会（Abimilho）によると、2018/19 年度の国内飼料用需要（2018 年 2 月）は、前年同期と比較して、約 100 万トン増加すると予測され、約 9,800 万トンの見通し。

【貿易情報・その他】2017/18 年度は、減産により輸出量が減少する見込み。ブラジル商工サービス省によると、主な輸出先は、イラン、エジプト、日本等である。

とうもろこしーブラジル

（大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが７割を占め、夏とうもろこしは３割）

（単位:百万トン）

年　度	2016/17	2017/18（見込み）	2018/19 予測値、(　) はIGC		2018/19 前月予測からの変更	2018/19 対前年度増減率(%)
生　産　量	98.5	87.0	96.0	(93.8)	－	10.3
消　費　量	60.5	62.0	65.5	(65.0)	－	5.6
うち飼料用	51.0	52.5	55.0	(52.0)	－	4.8
輸　出　量	31.6	30.0	31.0	(31.0)	－	3.3
輸　入　量	0.9	0.4	0.7	(0.5)	－	75.0
期末在庫量	14.0	9.4	9.6	(7.4)	－	2.1
期末在庫率	15.2%	10.2%	10.0%	(27.9%)	－	▲ 0.3
（参考）						
収穫面積(百万ha)	17.60	17.10	17.70	(16.90)	－	3.5
単収(t/ha)	5.60	5.09	5.43	(5.55)	－	6.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」（May 2018）
IGC 「Grain Market Report」（May 2018）

＜　中国　＞

【生育・生産状況】中国気象台の農業気象月報によると、4 月後半、東北地域の気温は、10℃以上に上昇し、春とうもろこしの播種に有利であった。4 月末までの全国の播種進捗率は、前年度より進んでいる。

4 月に示された「強農恵農」政策により、東北四省の大豆生産者への補助水準が、とうもろこしより手厚くなったことから、とうもろこしから大豆に作付けがシフトする可能性が高い。

【需要状況】4 月 12 日、政府は、在庫削減目的で国家備蓄の競売を開始した。初回に約 700 万トンを競売にかけたため、国内価格は下落傾向。オイルワールドによると、飼料向け需要が増加するとともに、エタノールとデンプン向け需要も増加の見込み。

とうもろこしー中国

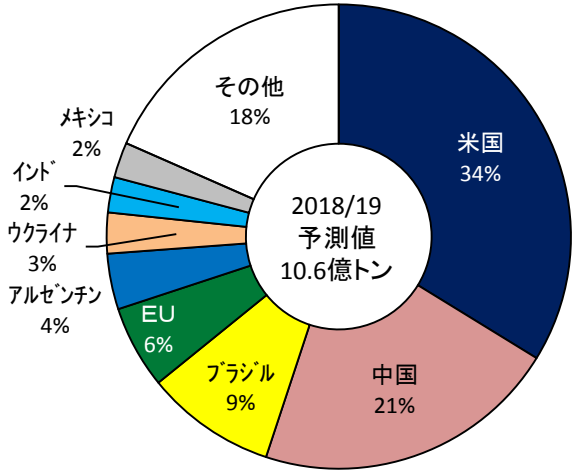
（単位:百万トン）

年　度	2016/17	2017/18（見込み）	2018/19 予測値、(　) はIGC		2018/19 前月予測からの変更	2018/19 対前年度増減率(%)
生　産　量	219.6	215.9	225.0	(220.8)	－	4.2
消　費　量	232.0	241.0	249.0	(246.2)	－	3.3
うち飼料用	162.0	167.0	172.0	(152.0)	－	3.0
輸　出　量	0.1	0.1	0.1	(0.2)	－	－
輸　入　量	2.5	4.0	5.0	(3.0)	－	25.0
期末在庫量	100.7	79.6	60.5	(166.0)	－	▲ 23.9
期末在庫率	43.4%	33.0%	24.3%	(35.6%)	－	▲ 8.7
（参考）						
収穫面積(百万ha)	36.77	35.47	36.50	(35.70)	－	2.9
単収(t/ha)	5.97	6.09	6.16	(6.18)	－	1.1

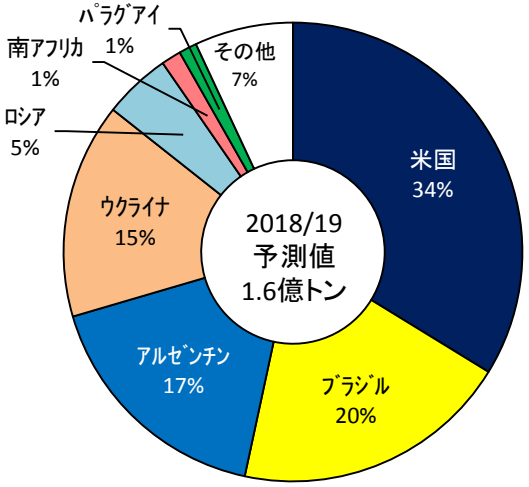
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」（May 2018）
IGC 「Grain Market Report」（May 2018）

資料　世界のとうもろこし生産量と輸出量/日本の輸入量（2018年５月現在）

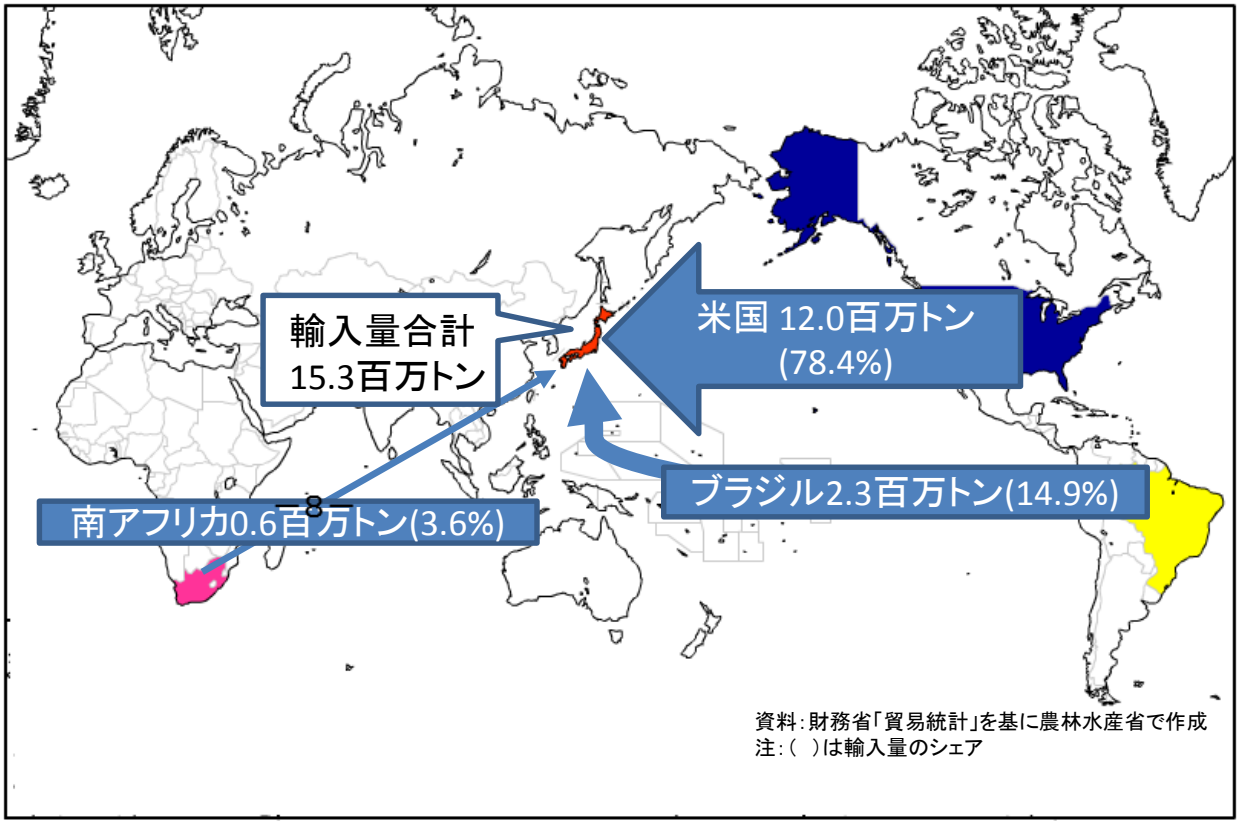
世界のとうもろこし生産量



世界のとうもろこし輸出量

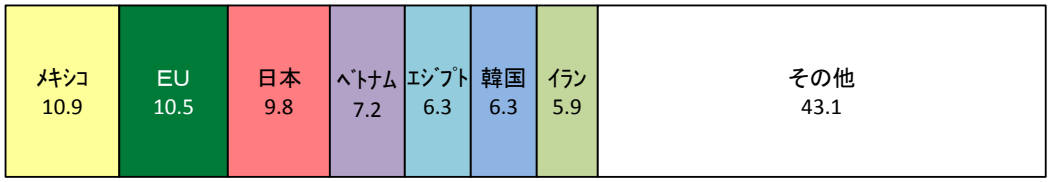


日本の国別とうもろこし輸入量（2017年）



＜参考＞世界のとうもろこし輸入国（2018/19）
－日本は世界第3位のとうもろこし輸入国－

（単位：%）



資料：USDA「PS&D」（2018年5月10日）を基に農林水産省にて作成。

3　米

（1）　国際的な米需給の概要（詳細は右表を参照）

＜米国農務省（USDA）の見通し＞

2018/19 年度

生産量　　**前年度比　↑　前月比　－**

・対前年度わずかに増加で史上最高の見込み。中国で減少もバングラデシュ等での増産がそれを上回る。

消費量　　**前年度比　↑　前月比　－**

・消費量は史上最高の見込み。中国等で増加。

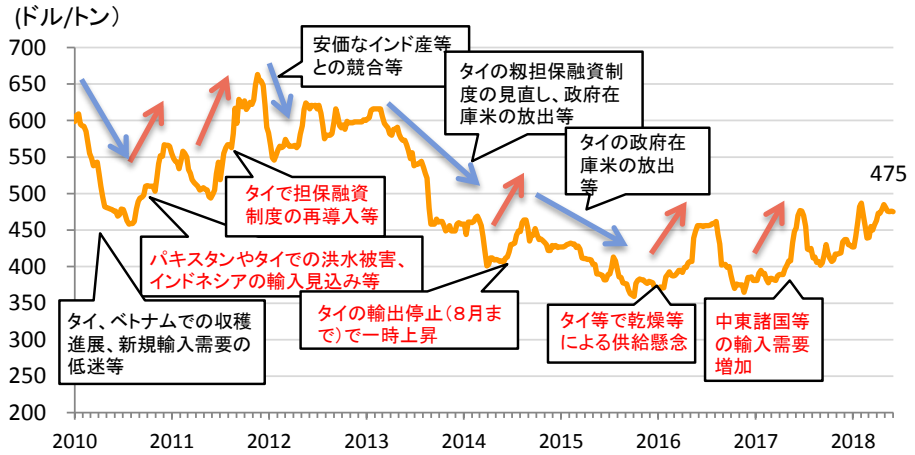
輸出量　　**前年度比　↑　前月比　－**

期末在庫量　　**前年度比　↑　前月比　－**

（単位:百万精米トン）

年　度	2016/17	2017/18（見込み）	2018/19		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生　産　量	486.7	488.2	489.5	－	0.3
消　費　量	482.7	481.2	488.6	－	1.5
輸　出　量	47.2	48.4	49.3	－	1.8
輸　入　量	41.4	48.7	46.4	－	－
期末在庫量	136.8	143.8	144.7	－	0.6
期末在庫率	25.8%	27.2%	26.9%		▲ 0.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、「World Agricultural Production」(10 May 2018)



注：2018 年 5 月 30 日までのタイ国家貿易取引委員会公表による毎週水曜日のタイうるち精米 100%２等の FOB 価格

（３）国別の米の需給動向

＜　米国　＞

【生育・生産動向】米国農務省（USDA）によれば、5 月 27 日時点で、長粒種の主産地のルイジアナ州では発芽が終了、中・短粒種の主産地のカリフォルニア州では 4 割程度の発芽進捗率である。

生育状況は良好で、生産量は前年度と比較して 14.0%増加の見込み。

【需要状況】消費量は、前年度比 1.6%増となる見込み。生産量が増加することから、農家段階の出荷価格は百ポンド(45.4ｋｇ)当たり 11.9～12.1 ドルと昨年より 0.2 ドルほど低下する見通し。

【貿易情報・その他】

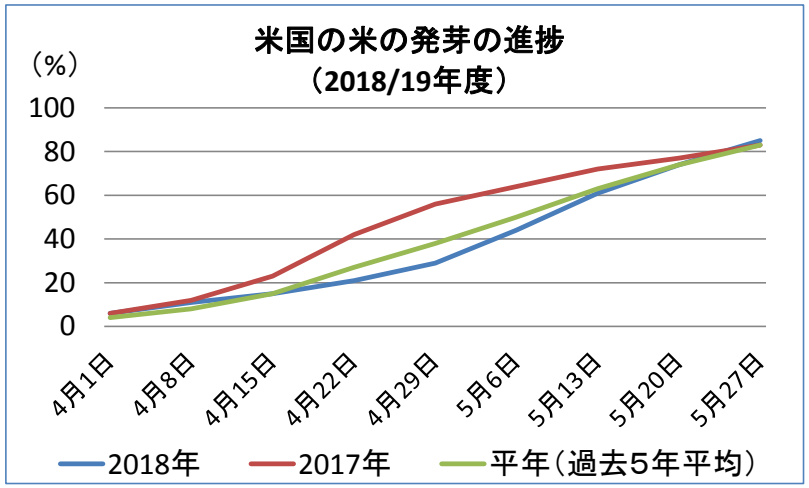
輸出量は、長粒種については、増産により価格競争力が増した結果、増加し、中・短粒種についても、エジプトの輸出減少により、地中海諸国向けへ増加する見込み。

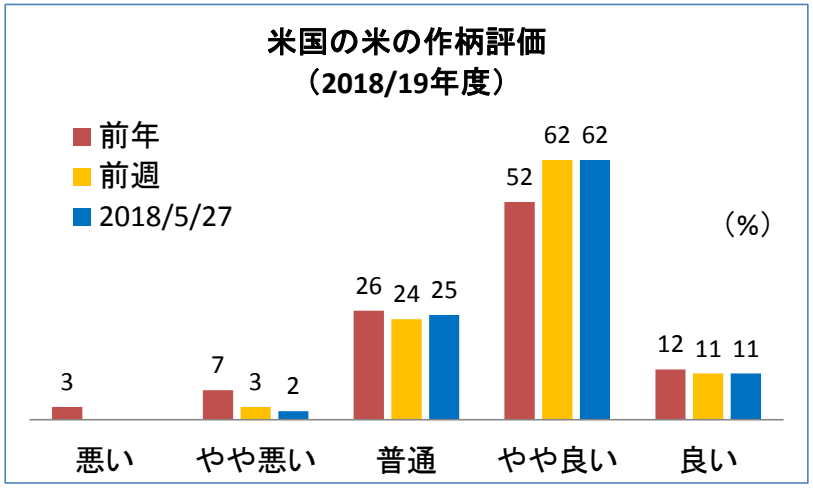
米－米国

（単位：百万精米トン）

年　度	2016/17	2017/18（見込み）	2018/19		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生　産　量	7.1	5.7	6.5	－	14.0
消　費　量	4.2	3.8	3.9	－	1.6
輸　出　量	3.7	3.1	3.2	－	5.2
輸　入　量	0.8	0.8	0.8	－	－
期末在庫量	1.5	1.1	1.3	－	18.3
期末在庫率	18.6%	15.9%	18.2%		2.3
（参考）					
収穫面積(百万ha)	1.25	0.96	1.08	－	12.5
単収(もみt/ha)	8.11	8.41	8.53	－	1.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、「World Agricultural Production」(10 May 2018)





資料：USDA「Crop Progress」(2018.5.28)をもとに農林水産省で作成。

＜　タイ　＞

【生育・生産動向】タイの米生産は主に夏期に栽培される雨期米と、冬期に栽培される乾期米に分かれている。

タイ政府の資料によれば、2017/18 年度の雨期米については、前年同期より降雨に恵まれたため、作付面積が増加し 9.43 百万ヘクタールとなり、生産量は 24.07 百万トン(籾ベース)、単収は 2.6 トン／ヘクタールとなる見込み。

一方、2017/18 年度の乾期米については、貯水量が潤沢であったことから、作付面積が 1.96 百万ヘクタールと増加し、単収が 4.2 トン／ヘクタールと見込まれることから、生産量は 8.17 百万トン(籾ベース)となる見込み。

【需要状況】消費量は、前年度より減少の見込み。背景には食生活の高度化により小麦へのシフトがあるとみられる。

【貿易情報・その他】輸出量はインドネシアやフィリピン向けの需要が強いこともあり増加の見込み。輸出需要の増加から輸出価格は上昇。

米ータイ（米生産は、夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる）

（単位：百万精米トン）

年　度	2016/17	2017/18（見込み）	2018/19 予測値、()はIGC		2018/19 前月予測からの変更	2018/19 対前年度増減率(%)
生　産　量	19.2	20.4	21.0	(21.0)	－	3.1
消　費　量	12.0	11.2	10.0	(10.5)	－	▲ 10.5
輸　出　量	11.6	10.5	11.0	(10.7)	－	4.8
輸　入　量	0.3	0.3	0.3	(0.3)	－	－
期末在庫量	4.2	3.2	3.4	(3.7)	－	7.8
期末在庫率	18.0%	14.7%	16.4%	(17.5%)		1.7
（参考）						
収穫面積(百万ha)	10.25	10.68	11.05	(11.10)	－	3.5
単収(もみt/ha)	2.84	2.89	2.88	(1.89)	－	▲ 0.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、「World Agricultural Production」(10 May 2018)
IGC 「Grain Market Report (24 May 2018)」

＜　中国　＞

【生育・生産動向】作付けに関しては、4 月末時点で、育苗が進んでおり、進捗率は早期米が中国全体で 93.3%、一期作稲が同じく 90.8%。稲の主産地の大部分は気象条件が比較的に良く、早稲と一期作稲の生長に概ね好条件となった。

米国農務省（USDA）によれば、収穫面積、単収ともにもわずかに減少することから、生産量は前年度よりわずかに減少となる見込み。

【需要状況】需要面では、国家臨時備蓄稲の競売が予定より早く再開したことで供給は充分となった。そのため、国内米価格は下落。今後も下落傾向の見込み。

【貿易情報・その他】米国農務省(USDA)によれば、近年西アフリカ諸国向けに輸出が増加している。一方、輸入については、世界一位の 550 万トンを維持する見込み。

米ー中国（北部で一期作、南部で二期作で行われる）

（単位：百万精米トン）

年　度	2016/17	2017/18（見込み）	2018/19 予測値、()はIGC		2018/19 前月予測からの変更	2018/19 対前年度増減率(%)
生　産　量	145.0	146.0	144.5	(141.8)	－	▲ 1.0
消　費　量	141.5	142.7	145.0	(146.0)	－	1.6
輸　出　量	0.8	1.3	1.7	(1.7)	－	30.8
輸　入　量	5.3	5.5	5.5	(4.8)	－	0.0
期末在庫量	86.5	94.0	97.3	(72.6)	－	3.5
期末在庫率	60.8%	65.3%	66.3%	(49.2%)		1.0
（参考）						
収穫面積(百万ha)	30.18	30.18	30.00	(29.45)	－	▲ 0.6
単収(もみt/ha)	6.86	6.91	6.88	(4.81)	－	▲ 0.43

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、「World Agricultural Production」(10 May 2018)
IGC 「Grain Market Report (24 May 2018)」

＜　インド　＞

【生育・生産動向】6月以降、カリフ期（雨期　主な作付け期）の作付けが開始。また、2017/18年度のラビ期（乾期）の収穫が東部の西ベンガル州等で開始見込み。

収穫面積が前年度より増加するものの、単収がわずかに低下することから、生産量は前年度よりわずかに減少する見込み。

【需要状況】消費量は、前年度よりわずかに増加する見込み。

【貿易情報・その他】輸出量は生産減から減少も、世界1位を維持する見込み。主な輸出先は、バスマティ米(高品質米)が中東5カ国（サウジアラビア、アラブ首長国連邦、イラク、クウェート、イラン）、非バスマティ米(普及米)がネパールやアフリカ諸国（ベナン、セネガル、ギニア、ソマリア等）である。

＜　ベトナム　＞

【生育・生産動向】南部のメコンデルタでは、冬春作の収穫を終え、夏秋作の植付け時期を迎えている。

米国農務省（USDA）によれば、生産量は、単収がわずかに上昇することから前年度よりわずかに増加する見込み。

【需要状況】消費量は、前年度並の見込み。

【貿易情報・その他】ベトナム食糧協会によれば、2017年の輸出量（5.8百万トン）のうち、中国向輸出量が2.3百万トンと約4割を占めた。また、2016年に比べ大洪水に見舞われたバングラデシュ（2016年：0.02千トン→2017年：232.55千トン）やイランへの輸出量が急伸した。

2018年第1四半期の輸出量は、前年同期比で15.5%増加して149万トンに達したものの、通年では前年度並みの見込み。同年第1四半期の輸出量では中国向けが最も多く、同国向輸出量は全輸出量の27.7%に相当する41万トンに達した。

米ーインド（雨季のカリフ作と乾季のラビ作で行われる）

（単位:百万精米トン）

年　度	2016/17	2017/18（見込み）	2018/19 予測値、()はIGC		2018/19 前月予測からの変更	2018/19 対前年度増減率(%)
生　産　量	109.7	110.0	109.0	(113.0)	－	▲ 0.9
消　費　量	95.8	97.4	98.0	(101.0)	－	0.7
輸　出　量	11.8	13.2	13.0	(12.2)	－	▲ 1.5
輸　入　量	0.0	0.0	0.0	(0.0)	－	－
期末在庫量	20.6	20.0	18.0	(18.0)	－	▲ 10.0
期末在庫率	19.1%	18.1%	16.2%	(15.9%)		▲ 1.9
（参考）						
収穫面積(百万ha)	43.99	42.90	43.50	(44.00)	－	1.4
単収(もみt/ha)	3.74	3.85	3.76	(2.57)	－	▲ 2.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、「World Agricultural Production」(10 May 2018)
IGC 「Grain Market Report (24 May 2018)」

米ーベトナム（北部で二期作、南部で二期作、三期作）

（単位:百万精米トン）

年　度	2016/17	2017/18（見込み）	2018/19 予測値、()はIGC		2018/19 前月予測からの変更	2018/19 対前年度増減率(%)
生　産　量	27.4	28.6	28.7	(28.6)	－	0.3
消　費　量	22.0	22.0	22.2	(22.8)	－	0.9
輸　出　量	6.5	6.8	6.8	(6.7)	－	－
輸　入　量	0.5	0.4	0.4	(0.4)	－	－
期末在庫量	1.0	1.2	1.2	(1.4)	－	6.1
期末在庫率	3.4%	4.0%	4.2%	(4.7%)		0.2
（参考）						
収穫面積(百万ha)	7.71	7.76	7.76	(7.80)	－	－
単収(もみt/ha)	5.68	5.89	5.91	(3.67)	－	0.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、「World Agricultural Production」(10 May 2018)
IGC 「Grain Market Report (24 May 2018)」

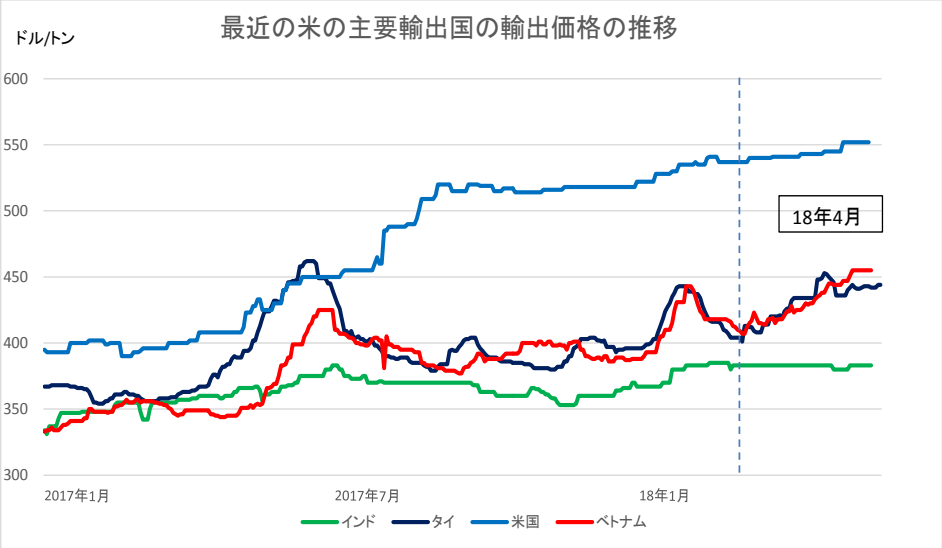
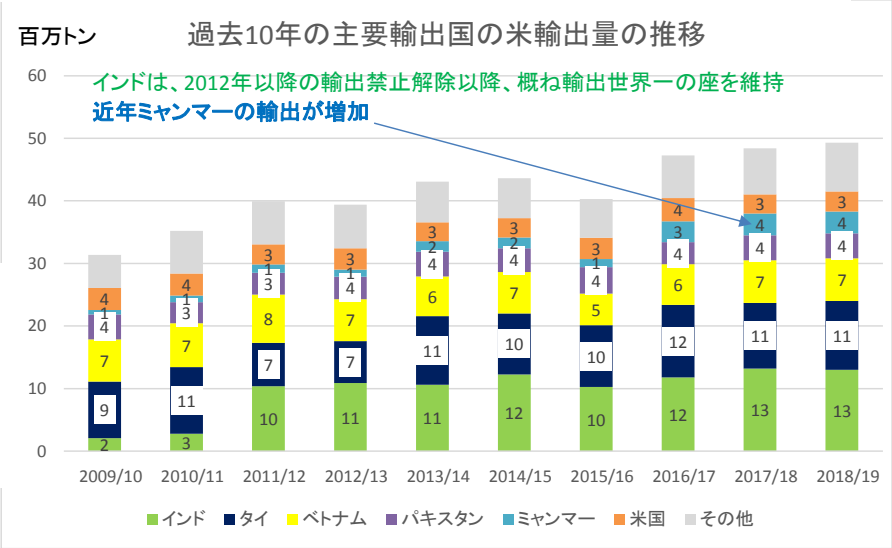
（参考）

・最近の米の輸出価格は、タイ、ベトナム、米国産とも 2018 年４月以降、上昇傾向が顕著（図－１）。

・過去 10 年間の米輸出国の輸出量の推移を見ると、2012 年以降は、輸出禁止措置を解除したインドが概ねシェア１位を保っている（図－２）。

・最近ではミャンマーが米国を抜いて世界５位の輸出国になるなど、米の輸出国の変化がある（図－２）。

図－１　最近の米の主要輸出国の輸出価格の推移



図－2　過去 10 年間の主要輸出国の米輸出量の推移